

Diversity

多様な人材が活躍できる研究環境づくりのために

隠岐さや香

背景説明：サイエンストークス

オフライン・イベント（8回開催）

株）カクタス・コミュニケーションズと研究者有志が中心となり、年1回の大型オープンフォーラムと科学トークイベントを定期開催。若手を中心とした多くの関係者が個人として議論に参加し、対話を通じて草の根的な提案を吸い上げる企画が開催された。（2013-2014年）



ネットで意見集約

掲示板やSNSを通じて個人ベースで科学技術の議論に参加できる形でテーマごとに意見を集約した。「多様性」はそのテーマの一つ。



「多様性 diversity」についてテーマリーダーとしてグループディスカッション、ネットでの意見募集を行い報告書の作成

画像出典：<http://www.sciencetalks.org/>

目標

人々の多様性が活かされる研究環境をつくる

様々な立場、ライフスタイル、興味関心の
人々がチームを組み、お互いの長所を活かし
ながら、発見や知識の蓄積に貢献することが、
学術全体の活動を豊かにし、創造性を高め
うるため

多様性の実現



集合知の発揮

1. 理想とする状況

ジェンダーやセクシュアリティの別なく適性や才能に応じて研究者になれること。

身体・精神に障がいのある人々がそのせいで研究への才能を活かすことを妨げられないこと。

日本が**言語や文化、国籍の違い**を意識せずに能力を発揮できる場になり、日本人も国外で自由に活躍できるようになること。

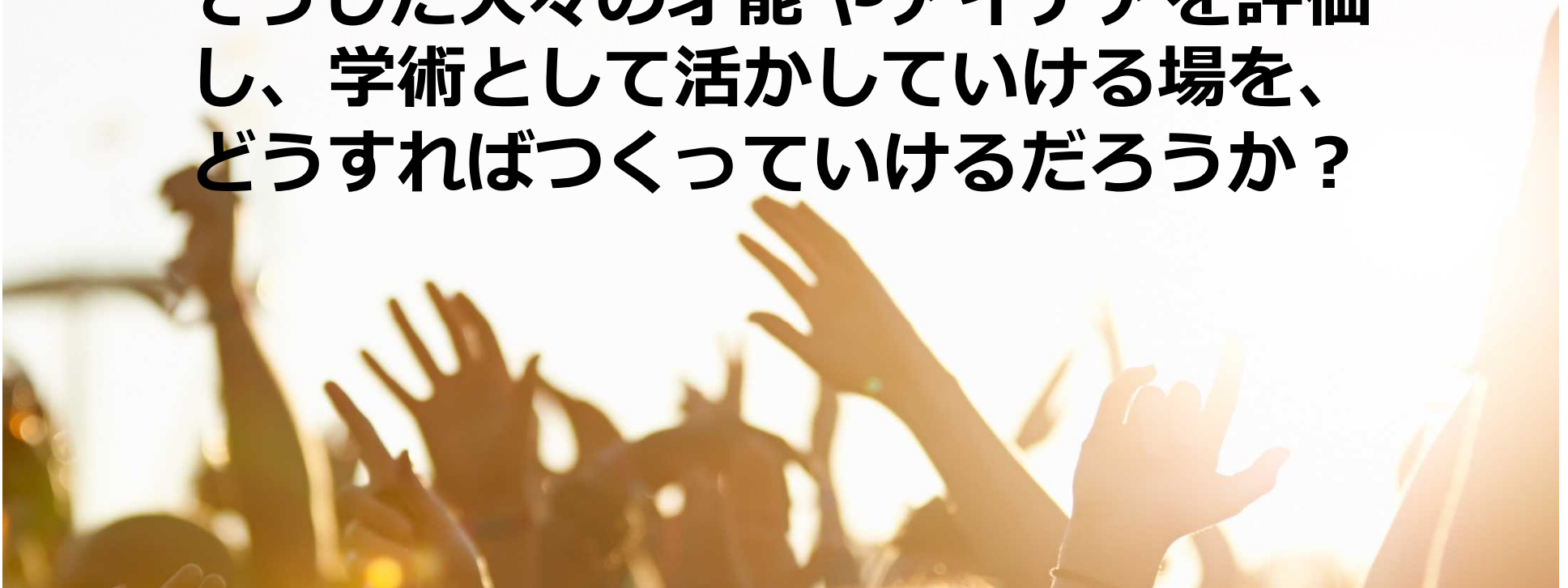
1. 理想とする状況（続き）

「在野」とされてきた人々（研究機関等に所属のない人、ガレッジ・サイエンティスト、等々）や、ある問題についての当事者による「当事者研究」などを、その立場の独自性ととも包摂できる制度づくりをすること。

企業と大学の人材がチームとして力を発揮できる体制がつくられること。

今まで、研究の世界で十分に評価されてこなかった人々やアイデアがある

そうした人々の才能 やアイデアを評価し、学術として活かしていける場を、どうすればつくっていけるだろうか？



Case studies on good practices

参考となる事例

Case study 1: 多様な人々の包摂

「包摂」事例 1

ジェンダー／セクシュアル・マイノリティの専門 相談員を置いた相談窓口の設置 (ICUなど)

<http://web.icu.ac.jp/cgs/c/08-1/>

学生生活ハンドブック

- * ユニバーサルトイレの案内
- * 学生定期健康診断の個別対応
- * 性別記載に対する申し立て案内

24時間電話相談窓口の設置

地域のレイプ・センターや大学のクリニックとの連携
(英国)



ジェンダー・セクシュアリティ、性に関してなんでも相談できます！
Any concern on gender, sexuality, or sex is welcome!

日程 毎週 火曜日 11:00-16:30
Date Every Tuesday 11:00 a.m. - 4:30 p.m.

場所 国際基督教大学 第一教育研究棟 (ERB-I) 318 号室
Place 318, ERB-I, International Christian University

日程 gscounseling@icu.ac.jp **利用対象者**：ICU 構成員 (学生、大学院生)、教職員 (連絡先を教えてください)
Reservation Counseling services are available to...
ICU students (undergraduate and graduate students, Kenkyusei, Onli) and all ICU staff

特別アドバイザープロフィール：高田 良美 (たかた よしみ)
ICU 卒業生。カウンセリングコンサルタントとして、関係業者や、カウンセリングを受けた人々の心への
援助を行っている。現在は、東京国際大学大学院国際関係センター、臨床心理士、ICU 教員。
メッセージ
あなたは今悩んでいるか？でも、「誰かに話を聞いてほしい」とか、また、「なにか聞いてみたい」とか
でも、心を決意しては聞かずにいますか、どうか連絡をください。

Special Advisor Profile: Yoshimi Takada
Graduated from ICU. As a Counseling Out counselor, she provided psychological support to LGBT persons and their
friends and family. Currently, she works as a psychologist at Japan Lutheran College (Seminary) Counseling
Center. She is also a member of ICU Church.
A Message from Ms. Takada
If you're having problems with something now, or there's something that's been troubling you for many years, or
even if you just want to talk to somebody, feel free to contact me anytime.

(続き)

身体障がい、精神障がいのある学生および研究支援と、 大学間ネットワーク形成の援助

例：障害学生修学支援ネットワーク

http://www.jasso.go.jp/tokubetsu_shien/shien_network/nw.html

例：広島大学アクセシビリティセンター

<http://www.achu.hiroshima-u.ac.jp>

米国言語学会（LSA）のW. Stokoeファンド：会員 からの寄附により、手話通訳費用を捻出

(米国文化人類学会、米国障がい学会などでも事例有り)

Case study 2:当事者研究の可能性

当事者研究とは

精神障がいなどを抱えることから起きる固有の体験や生きづらさの中に「研究テーマ」を見出し、自由に対話を重ねながら、起きている出来事や経験をひとつの「現象」と捉え、その背景にある意味や可能性、パターン等を見極め、その人に合った自助の手立てや理解を見出すための研究活動

参考：当事者研究ネットワーク

http://toukennet.jp/?page_id=29_c2

参考：当事者研究（事例）

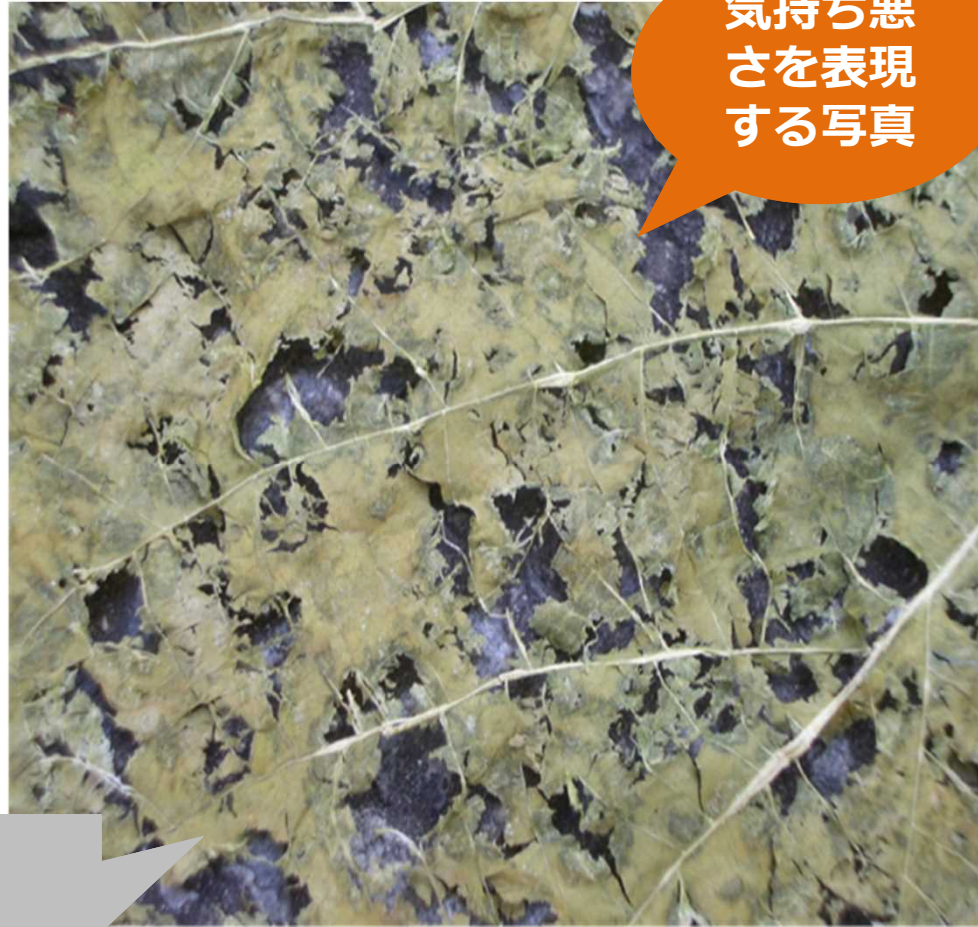
気持ち悪い！
（パニック）



えっ、どうして？

道端の枯れ葉

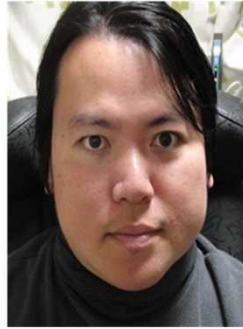
気持ち悪
さを表現
する写真



当事者による分析と写真撮影
→仮説：普段から部分的にフォーカスし
た情報をとる傾向にあるかもしれない

熊谷晋一郎氏による綾屋紗月氏の当事者
研究紹介より（出典は次ページに記載）

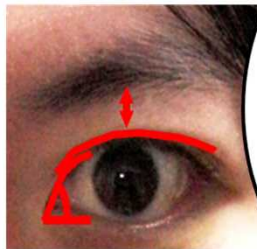
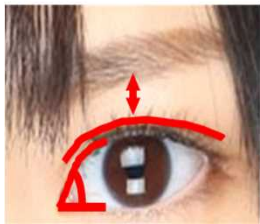
研究例 2



どう見ても
全然似てない
でしょ～!



多くの人（定型発
達者）は顔を複数の
パーツの空間的
な配置の類似性
によって判断して
いる



上まぶたの立ち
上がりの傾斜角
と奥二重の入り
具合と目と眉毛
の距離の近さが
似ている・・・



部分的なパーツの
類似性によって判
断する感覚の持ち
主には二つの写真
は「似て」見え
る

熊谷晋一郎「当事者研究の可能性 —聴覚過敏を例に—
『教育オーディオロジー研究』 8, 1-1 X, 2014より

手話で研究論文



The screenshot shows the homepage of the Deaf Studies Digital Journal (DS DJ). The header includes the journal's name, the issue information (ISSUE 4 SPRING 2014), and navigation links for FROM THE EDITORS, ARTICLES, COMMENTARY, LITERATURE, VISUAL ARTS, and FILM & VIDEO. A central video player features a man in a red shirt signing. To the right of the video, the article title is displayed: "Two Views on Mathematics Education for Deaf Students: Edward Miner Gallaudet and Amos G. Draper" by Chris Kurz. Below the title, a short summary of the article is provided. At the bottom right, there is a "Download Text" link for the PDF file (DSDJ_entry182.pdf) and a section titled "Whence Came From" with a sub-section "Views on Mathematical Teaching".

出典
<http://dsdj.gallaudet.edu>

例) スウェーデンのストックホルム大学博士論文、イギリスのDeaf Studiesなど

Case study 3: 研究者・住民・自治体と知の共生産

アリゾナ州立大学 Decision Center for a Desert City

(<https://dcdc.asu.edu/>)

地域主導研究者コミュニティ、レジデント型研究の進展

co-production of knowledge and action



水供給問題の大型調査、シミュレーションと教育、行政、住民との協働
地域住民との定期的ワークショップ、情報収集、社会科学的手法を用いた
意思決定

出典 <https://dcdc.asu.edu/watersim/watersim-v5-0/>
2/24/2016

Case study 4: Independent scholar/engineer

天文学ファンや歴史好きは昔から活躍してきたが、近年はこんな例も

DIYバイオ

自宅で生物学研究 自宅で遺伝子検査
タンパク質構造解析ゲームをプレイ、等々
→大発見の例も



出典：<http://biohacker.jp>

ハッカソン (Hackathon)

プログラマー達が技術とアイデアを競い合う開発イベント
「24時間でひとつのサービスを作り上げ、
壇上で聴衆にプレゼンする」
→ 「いいね！」ボタンの開発など有名



出典：<http://html5jcup.herokuapp.com/>

クマムシ博士 (堀川大樹氏)

大学に雇用されていないフリーの研究者
オープンアクセスで研究成果を無料提供
メルマガ、グッズ販売で研究をマネタイズ



出典：
<https://twitter.com/horikawad>

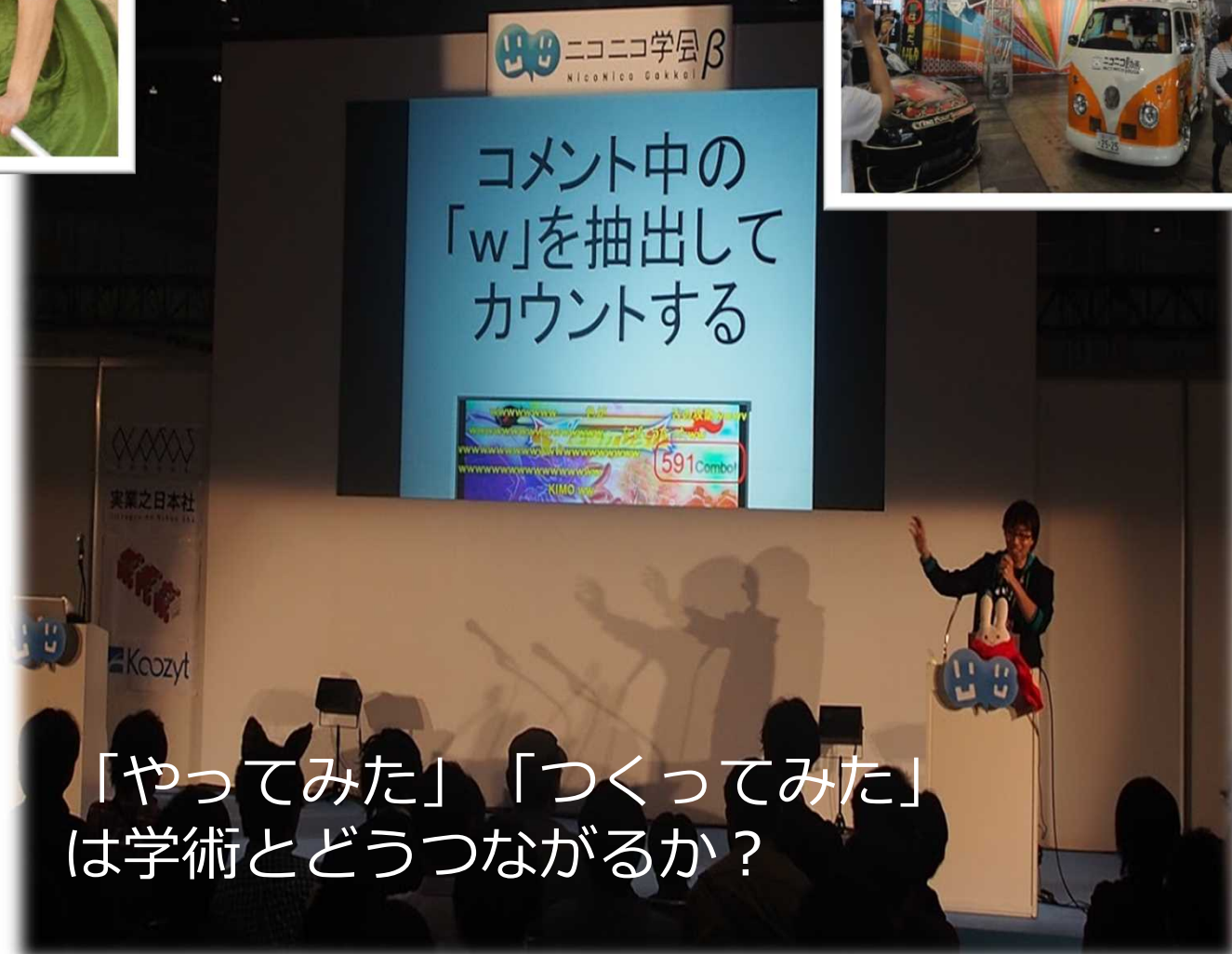


「ニコニコ学会βは研究の価値を多様化します」



出典：

<http://niconicogakkai.jp/info/nng2-archive/photos>
上) 高須正和氏撮影
右) 大岡寛典氏撮影
<https://readyfor.jp/projects/mushimushi>



「やってみた」「つくってみた」
は学術とどうつながるか？

Necessary Measures for the
Future

必要な施策

提案 1 : 多様性を排除しない 研究環境づくりの推進

ハラスメント対策の徹底とライフラインの設置

例) 大学教員にハラスメントや多文化理解のための
定期講習・自主講習を浸透させる (特に中高年層)

外国人、障がい者、性的少数者等雇用 差別事例についてのデータベース化

立場・条件に応じた互助的な全国的
研究者ネットワークの創出を支援
(技術・資金)

提案 2: 自由な「場所」と それを支える制度をつくる

「大学外」および「大学内外」の研究活動を支える
インフラ作り

- ・必要な設備の把握（例：公的なフリースペースなど）
- ・大学など公共施設の使用条件みなおし

まとめ

環境と社会の問題が複雑さを増す現在、「研究」も多様な関係者によるワークシェア、共生産、そして行動することを求められる分野が発展していくのではないのでしょうか

そのために求められている研究環境のあり方を探っていく必要があります

「サイエンストークス」発表資料より作成
参考URL: <http://goo.gl/C8Ryzj>

